



●山の日ポスター展 2024：作品紹介

6つの曲線から描かれる山は、最北の県庁所在地である札幌市、最南の那覇市、そして主査の地元である長野市における1891年と2023年当時の月毎の最高気温を表し、グラフの平滑化により滑らかな曲線が描かれた。6つの曲線から構成される山々から多くの気づきを得て欲しい。1891年から2023年までの最高気温の差を確認した上で、現在の日本の置かれている状況を理解し、我々ができることを考えてアクションしたい。それが「山の幸せ」につながり、「山を愛する人々の幸せ」、そして「日本ならでわの四季の彩りを愛する人々の幸せ」にも繋がるはずである。

作品名：Mountains drawn from 6 curves
(prototype) D：Yosuke YOSHIKAWA



(吉澤陽介 主査より：015)

●中国の大学における色彩教育・1

今回北海芸術設計大学において、オストワルト表色系の配色の考え方と、「ファッションへの応用」と題して三項目にわけて講義をしてきました。

全く色彩がわからない新入生と、美術系の大学なので、デザインや色彩の事を理解している学生むけに講義をするために、基礎の色相環からオストワルトの混色理論、配色を作るためのデータベースについて詳しく解説する講義をしました。

日本色彩学会のカラーライブラリーからデータを取寄せ、自分なりに組立てをして、文字数で一万字の文字起こしをして解説しました。座標や図表を見ながら詳しく解説することが基礎の色彩教育には大切なので、文字起こしに十分な時間をかけました。

オストワルト型を選んだ理由は、24色相の等色相面の色数が全て等しいので、システムの色を選んで配色作成が簡単にできる事を重点において解説しました。

色の物差しが定まっていない中国で、色彩教育の一步を踏み出せるように、色彩教材研究として自分がピンときた事に焦点を絞って学生が理解できることを重点に教えました。続く。

(田森恭子)

●万葉集のなかの色名 -20

秋の野の 尾花が末に 鳴く百舌鳥の
声聞きけむか 片聞く吾妹

秋の雑歌 (巻10-2167)

春は萌え 夏は緑に 紅の
まだらに見ゆる 秋の山かも

秋の雑歌 (巻10-2177)

言に出でて 言はばゆゆしみ 朝貌の
秀には咲き出ぬ 恋もするかも

秋の雑歌 (巻10-2275)

恋ふる日の け長くあれば み苑生の
韓藍の花の 色に出でにけり

秋の雑歌 (巻10-2278)

朝咲き 夕は消ぬる 鴨跖草の
消ぬべき恋も われはするかも

秋の雑歌 (巻10-2291)

「尾花」は、すすきの穂をさす。「百舌鳥」は小鳥のモズ。二首目は春、夏、秋の山の色の変化を詠んだ歌で、春は萌黄色、夏は緑色、秋は紅と読んでいるが、当時、もみじは「黄葉」と書いて「もみちば」と読むのが多かった。「朝貌」はアサガオのこと。「韓藍の花」は、今の呼び名で「鶏頭」であり、渡来植物であることがわかる。「鴨跖草」は今の露草で、「消える恋」にかけている。

*講談社文庫・中西進・万葉集から (永田泰弘)